



過保護と過干渉とは！

「過保護」とか「過干渉」という言葉をよく耳にします。どちらも「よくないもの」のように言われることがあります。この二つは違います。

子ども自身が望むことを何でもしてあげることが「過保護」で、子どもは望んでいないけれど、親が一方的に「こうしたほうがいい」と思うことを言ったり、したりすることが「過干渉」です。これは決定的に違うものです。

子どもの望み通りにしてあげること、してあげすぎること、というのは「悪い」とされることがあります。何でも子どもの言うことを聞いてやったら、子どもは依頼心ばかりが強くなり、自立できなくなる、という意見です。これは過保護の結果ではなく、過干渉が原因とされています。

過保護を恐れる親というのは、干渉しがります。親が一方的に「よい」と思うものを与え、「役立つ」と思うことをさせようとしています。

子どもがほしがっても親がよくないと思うものは決して与えず、子どもがやりたがっても親がやらせたくないことは全部禁止してしまう。理由はいろいろあるでしょう。少しでも体に悪いと思うものは食べさせない、ちょっとでもケガをしそうな運動はさせない、危ないものや汚いものには触らせない、将来勉強の役に立ちそうなものしか与えない、といったことです。

これはいくら親が「子どものため」と思っても、本当は「親が望むこと」ばかりです。子どもが望むことは、親から見たら、全部危険で役に立たないことで体に悪いことかもしれません。けれどそれを全部禁止したら、子どもの世界は本当につまらないものになります。好奇心のかたまりのような子どもにとって、欲求不満だけがたまります。

なぜ過干渉になるのかというと、子どもの本当の成長力、発達力、自立する力を信頼できなかったり、子どもの能力以上のものを期待したりするからです。

親は自分の気持ちをきちんと戒めて、期待ばかりして過干渉にならず、保護的に育ててあげることが心がけましょう。子どもが成長して本当に必要な自発性、自主性、主体性といった生きる力の芽をつんでしまうことになります。



「過干渉」チェックをしてみよう！

1	1日1回以上「～しなさい」と言っている	
2	子どもが行きたくない習い事や塾に無理やり行かせている	
3	3か月以内に子どもに暴言を吐かれた	
4	子どもとは勉強や受験の話が5割以上になっている	
5	最近子どもに強く言いすぎて子どもが引きこもった	
6	家庭で守らないといけないルールが5つ以上ある	
7	1ヶ月に2回以上、自分のイライラが原因で子どもを叱ったことがある	

もし、このリストに2つ以上当てはまる場合は過干渉傾向あります。5つ以上当てはまる場合は完全に過干渉な親になっていますね。

過干渉にならない子どもへの接し方

①子どもを信じて待つと主体性が育つ

子どもが何かしようとしているときは信じて待ちましょう。主体性を育てるために一番良いのは、子どもにどうしたいか考えさせて、自分で行動してもらうことです。

②失敗が成長に繋がると信じてと好奇心が育つ

失敗が成長に繋がると信じて、あえて失敗すると分かっているも見守りましょう。失敗の積み重ねで精神的に強い子に育ちます。

③親自身の考える時間を作ると適切な距離感が保てる

親も、自分自身のことを考える時間を作りましょう。自分自身に時間を費やすことで、子どものことに口を出す時間が減ります。

